



# DF地域デザイン総研の紹介

240206MFujimura

**教育支援**  
(教育関係の方へ)



アカデミーグループ (大学・リカレント)  
理科実験グループ  
授業支援の会

**企業支援**  
【企業関係の方へ】



企業支援グループ  
コンサルティンググループ  
エグゼクティブサーチ事業部

**地域デザイン総合研究所**



地域デザイン総合研究所  
部会・研究会  
同好会

## DFの強味・弱味

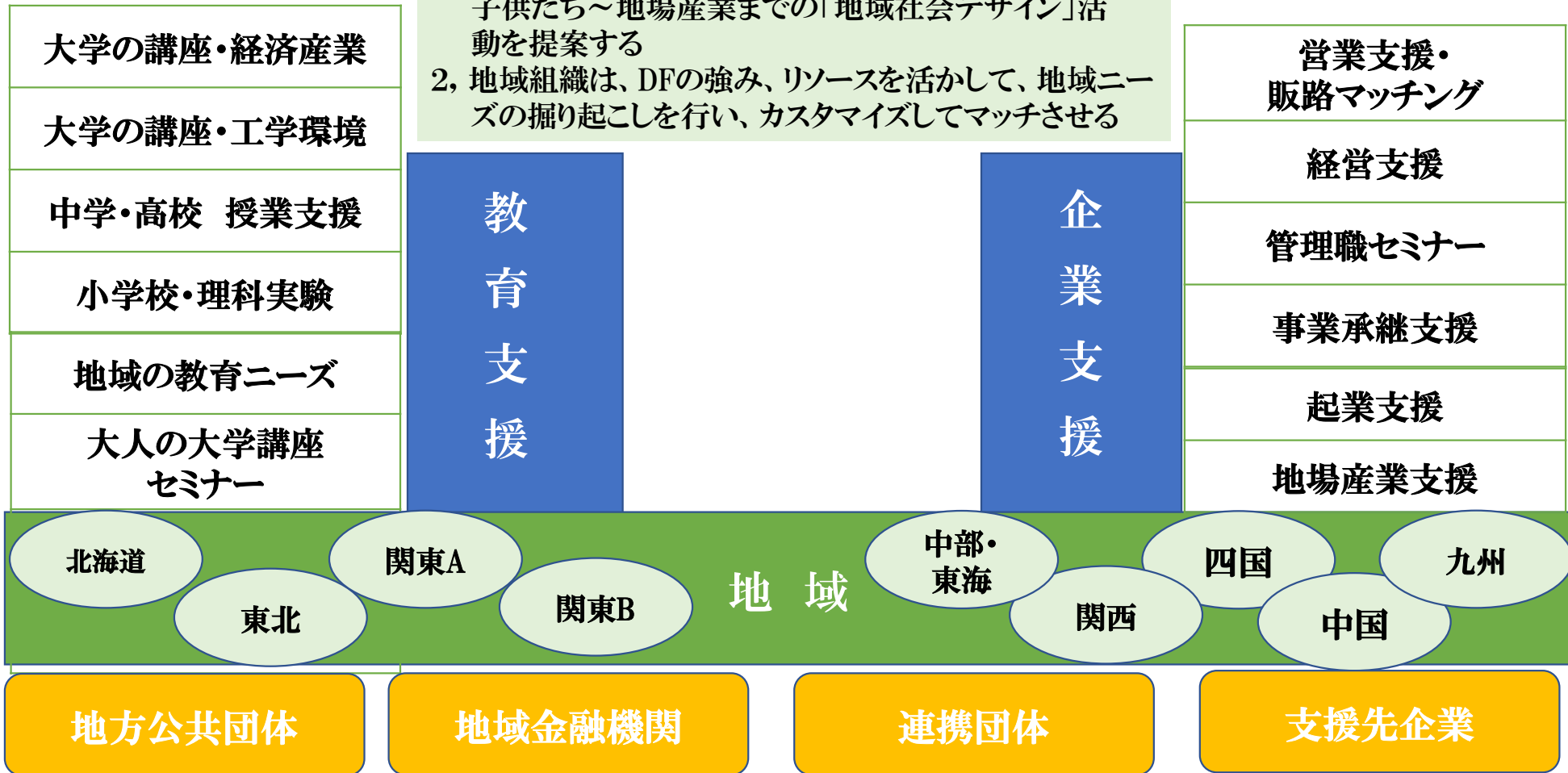
- ・ 随一の組織
- ・ 常時活動は1/3
- ・ 更なる飛躍



牧野教授  
X DF資産  
⇒  
地域貢献

# 地域社会デザインコンセプトイメージ

- 1, DFの活動要素のすべてを含むロールモデルとして、子供たち～地場産業までの「地域社会デザイン」活動を提案する
- 2, 地域組織は、DFの強み、リソースを活かして、地域ニーズの掘り起こしを行い、カスタマイズしてマッチさせる



\*ブロックはイメージ

# 牧野篤氏（東京大学）集中講義「社会をつなげる公民館へ」

YouTube

YouTube · 【公式】月刊公民館ちゃんねる · 2022/11/01

The image shows a YouTube video player interface. At the top, the video title is '牧野篤氏（東京大学）集中講義「社会をつなげる...」'. Below the title, there is a notification banner for COVID-19 information. The main content area displays the text: '働き方が大きく変わる', 'マルチステージ', 'パラレルキャリア', '雇用から委託契約へ', and '100年学び続ける力を'. A small video thumbnail of the speaker is visible in the bottom left corner. The video progress bar shows 53:15 / 2:56:23. The YouTube logo and other interface elements are visible at the bottom.

## 再生位置

- 06:44 社会をつなげる・伝えていく
- 09:55 社会に開かれた教育課程とは
- 28:21 民主主義の訓練場
- 28:39 公民館の役割3文化交流の場

愛知県出身。名古屋大学大学院修了。博士（教育学）。専門はもともと中国近代教育思想、今はそれに加えて**社会教育・生涯学習**を担当。日本の**まちづくりや高齢化と過疎化問題**、中国・台湾のコミュニティ教育・少子高齢化問題などに関心がある。最近では、自治体と一緒に公民館や生涯学習の共同調査を行ったり、多世代交流型コミュニティの構築を進めたり、さらには企業と一緒に「ものづくりの社会化」プログラムなどを運営している。ざわざわとした雑踏のような研究室で、学生・院生ともども、がやがやと調査に出かけています。

# 地域住民の「誇り」を再生し 3つの空洞化を防ぐ

住民自身が住み続ける誇りを  
失う・意義を見い出せない



大人の発する地域・生業を  
否定する言葉



子供に受け継がれる



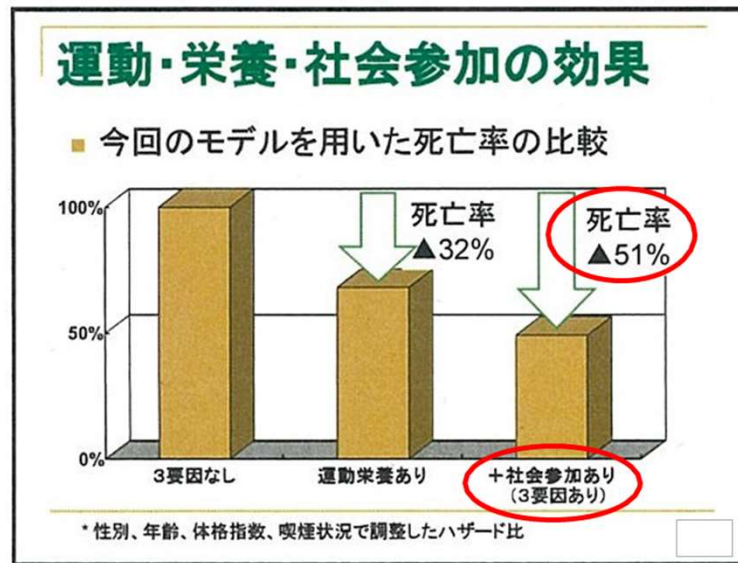
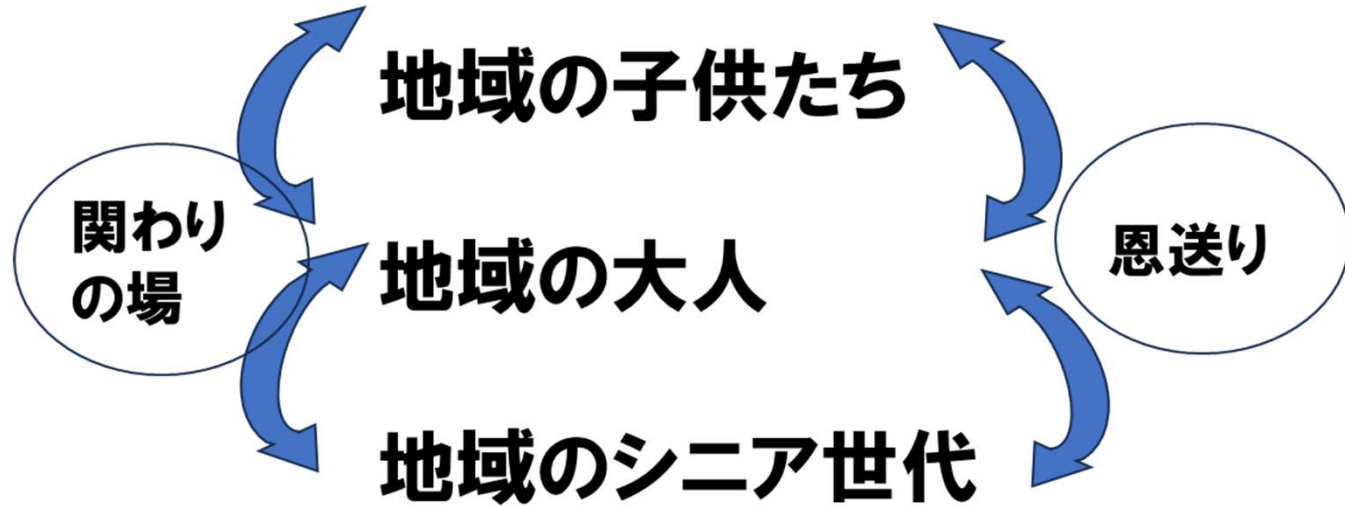
連鎖



「誇り」の空洞化

人の空洞化  
土地の空洞化  
ムラ(集落機能)の空洞化

東大教授 牧野篤  
兼  
DF地域デザイン研究所長



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」  
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

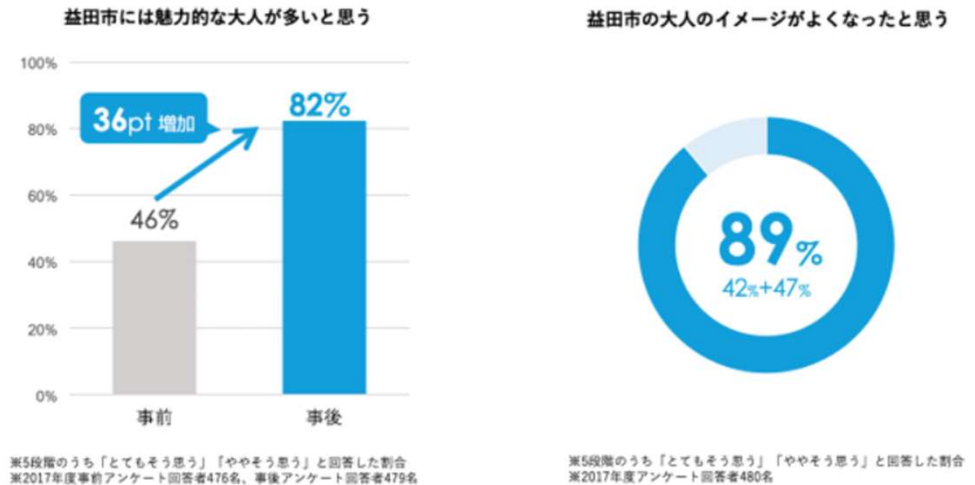
# 島根県益田市 × NPOカタリバ 「ライフキャリア教育」 で、人との繋がりを再構築する

<https://www.katariba.or.jp/activity/project/masuda/>



- 1つ目：中学校カタリ場、大人が中学生に対話です。
- 2つ目：高校カタリ場、大人が高校生と語るです。
- 3つ目小学校カタリ場、高校生がロールモデルとなる

## カタリ場プログラムを通して生まれた、子どもたちの益田市の大人へのイメージの変化



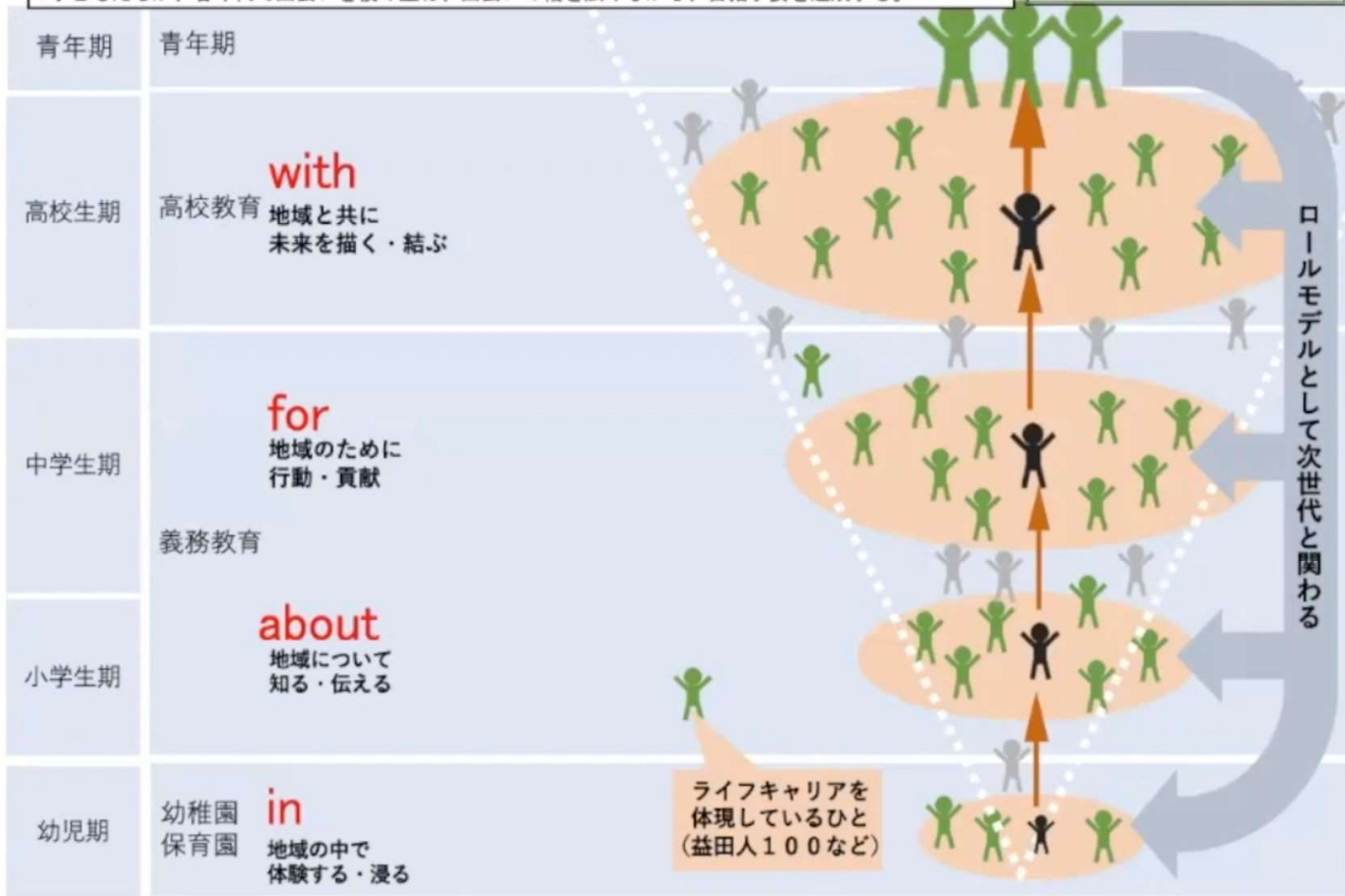
## カタリ場プログラムを通して生まれた、子どもたちの益田市への想いの変化

# 「益田人100」を軸としたライフキャリア教育の流れイメージ図

「益田人100」を軸としたライフキャリア教育の流れイメージ図

○保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと（益田人100）」との出会いを位置づけるプログラム。  
 ○子どもたちが、各年代で出会いを積み重ね、出会いの輪を広げながら、目指す姿を達成する。

【目指す姿】  
 ○日々の目標に対し、能動的に生き、自らの可能性を広げることのできるひと

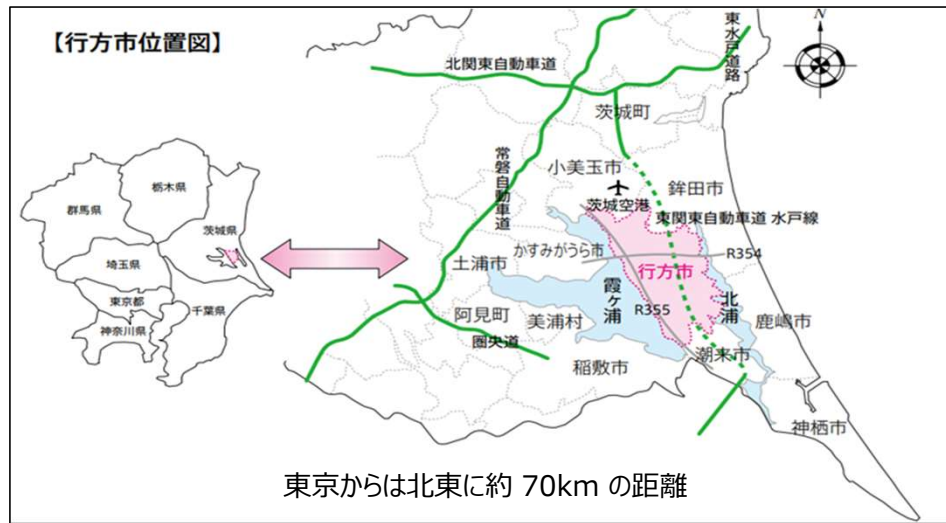




# 行方市との連携の方向と検討状況

## 1. 茨城県行方市の位置と特徴

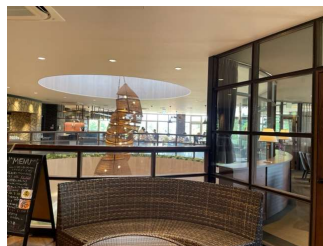
- ・人口 30,656人（2023年4月）
- ・平成 17 年 9 月に麻生町、北浦町、玉造町の3町が合併して行方市が誕生



- ・霞ヶ浦と北浦という観光資源に隣接し、霞ヶ浦沿いに温泉も持つ。
- ・市役所の麻生支所には、スタジオがあり、毎日12:00-12:45で生放送も地上波で発信。
- ・課題は、高齢化と人口減少。市としては、工業団地への企業誘致を進めている。



霞ヶ浦の眺望



小学校跡地に作られたレストランと土産物店



市が運営するスタジオ

## 2. DF関係者が見る行方市の課題

- 人口はこのままでは減少止まらず。若年層は東京の学校へ行くと帰らず。
- 基幹産業は農業。水辺は、ウォータースポーツ等が可能だが未開発。
- 市は、北浦工業団地への工場誘致をすすめたい。
- 学校跡地の利用を促進したい（サテライトオフィス、物流センター等）
- 街は繁華街がなく商業集積はベイシア、カインズホームなどのSC、道の駅。
- 観光開発、産品の首都圏拡販、ワーケーション開発などの可能性

## 3. DFとしての連携の可能性

1. 小中学校に対する「理科実験」出前授業（行方TV放送の活用も）
2. 高校生に対する授業の提案
3. 企業支援
4. 霞ヶ浦等の資源を活かした観光事業の提案(観光立国研究会との連携)

## 4. 連携の検討進捗

- ・行方市の連携交渉の窓口：**行方市企画部事業推進課**  
**同地域開発プロジェクト統括Mgr ウルジ氏**
- ・DFとして支援・連携可能な分野について提案済み（10月1日）  
※現在、企画部事業推進課の反応を待っている状況

常住人口：30,501人（令和5年10月1日現在）

年齢別人口割合（令和5年10月1日現在）

15歳未満	15～64歳	65歳以上
9.2%	52.6%	38.2%

出生数：  （令和3年）

死亡数：588人（令和3年）

麻生小学校※平成24年度より、麻生小、行方小、小高小が統合

麻生東小学校※平成25年度より、太田小、大和一小、大和二小、大和三小が

北浦小学校※平成28年度より、津澄小、要小、武田小（平成24年度より、武田小、小貫小、三和小が統合）

玉造小学校※平成26年度より、羽生小、玉造西小、現原小、玉川小、玉造小、手賀小が統合  
18校が4校へ

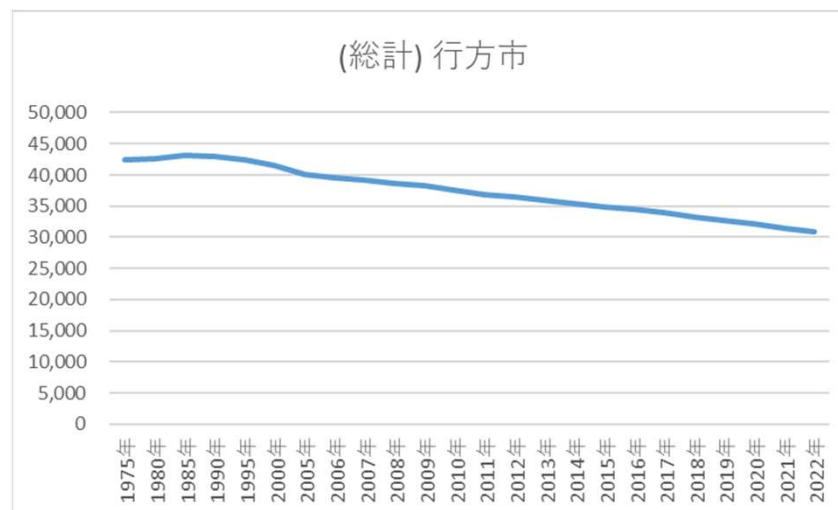
麻生中学校※平成24年度より、麻生中、麻生一中が統合

北浦中学校

玉造中学校

県立麻生高等学校

県立玉造工業高等学校



## 目的

- ・ 少子高齢化など環境は厳しさを増し、特に地方に置いては市町村の合併に見られるように一段と厳しさを増す状況にある。
- ・ DFの20年にわたる首都圏を中心としたノウハウの積み重ねを地方の活性化に寄与させたい。
- ・ 上記の実施過程で現在のDF会員の活動範囲の拡大と深化を図る。

**地方への貢献への興味、コネがある方 是非ご参加ください。**

**まずは**

**勉強会から**

# DF会員の地域グループ化

## 第1回地域会議の開催

(広報担当：小林、近藤)

- ・ 会員の選択名簿作成
- ・ 案内配布
- ・ 会議開催



## 地区リーダーに加えて活動

- ・ リーダー登録
- ・ 地域内組織化
- ・ 活動内容は基本自主性
- ・ feedforward,backは必要

## 継続的体制：地域デザイン総研

